

普及活動情勢報告（平成28年4月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

緑肥作物を利用した水稻栽培について



緑肥作物の生育状況を確認する研究会員

4月15日、JA土佐香美香北支所において、休耕期に緑肥作物（インゲなど）を栽培し、景観保全と施肥軽減に活用する取り組みを進めている菰生米研究会が定例会を開催し、15名が参加しました。

農業改良普及課からは、緑肥作物の生育から窒素量を換算し、水稻の基肥量や土壌への還元方法について説明しました。

参加者からは、「緑肥作物を利用して栽培した菰生米の認知度向上には、品種や品質の統一が必要では」などの意見が出されました。

農業改良普及課では、緑肥作物を利用した水稻栽培暦の作成や、菰生米の認知度向上への取り組みについて引き続き支援します。

萩野・太郎丸集落営農組合設立総会の開催



集落営農組織の組合員と関係機関

4月19日、香美市香北町の萩野・太郎丸集落で集落営農組合の設立総会が開催されました。

農業改良普及課では、数年前から講習会や座談会等を通じて集落を守る取組等について協議を進めてきました。その結果、組合員7名による組織が設立されました。

役員からは「ようやく設立の運びとなり、組織で集落の農地を守っていきたい」などと前向きな挨拶がありました。

農業改良普及課では、関係機関と協力して集落営農塾の開催や、リーダーへの働きかけ等を通じて、組織活動が継続して行えるようにステップアップに向けて引き続き支援します。

ニラそぐり機導入に向けた産地パワーアップ事業説明会



ニラ部会産地パワーアップ事業説明会

4月11日、JA土佐香美ニラ部会を対象に、調整作業機の導入に向けた説明会を開催し、15名が参加しました。

農業改良普及課では事業の要件と導入に向けたスケジュールについて説明しました。

参加者からは、「調整作業員の確保が困難となっているので調整作業機を利用したい」「調整作業機の有効性について、導入した農家の状況を見てみたい」などの意見が出されました。

今後、農業改良普及課では、ニラ栽培が継続できる仕組みを作るため、調整作業機の導入に向けて支援していきます。

4月から農家レストランまほろば畑が新体制となりました



臨時総会であいさつする会長

4月8日、南国市農家レストランまほろば畑の臨時総会にグループ員40名が参加しました。

5年間活動してきた5グループのうち3グループが3月末で卒業し、新グループ「たちばな」を加えた3グループ体制となる節目の総会でした。これまで農業改良普及課は、レストランの運営継続や、「たちばな」の営業開始に向けて役員会や行政チーム会で助言、支援してきました。参加者からは、道具の持ち運びに苦労したことや達成感を味わったことに加え、新グループへのエールも送られました。

今後も、新体制の運営が軌道に乗るために、作業の効率化や経費削減、人材育成などグループ員の意向もふまえて支援していきます。

香北地区でニラ栽培講習会を開催



ニラの仕上がり具合を確認する参加者

4月1日、J A土佐香美香北地区において第33回香北ニラ大学を開催し、生産者27名が参加しました。

現地研修においては、昨年度導入した生産者の調整作業機の稼動状況を見学しました。参加した生産者は、ニラの仕上がり具合を確認しながら、機械調製にかかる時間や人数、価格などについて質問していました。

農業改良普及課では平成27年度に実施した試験結果等について報告し、J Aからは作型や出荷量の推移等の傾向から、定植時期の見直しによる作型改善を提案しました。

農業改良普及課では、調製作業機械を導入して雇用不足を補うとともに、作型を改善することで収量や所得の向上に向けて支援します。

カットネギ栽培講習会の開催



青ネギの栽培方法を学習する西永野生産組合のメンバー

4月14日、西永野集落営農組合を対象にカットネギ栽培講習会を開催し、3名が参加しました。

農業改良普及課では作型、栽培管理について指導し、今後のスケジュールについて検討しました。

露地栽培で約10a、ハウス栽培で約7a実証し、露地では5月中旬の定植に向けて、4月下旬からは場を準備することになりました。

農業改良普及課では収益性などを検証し、組合の有望品目として定着するよう支援していきます。

環境制御技術のステップアップを！ ～イチゴ高設栽培研究会勉強会から～



イチゴ高設栽培研究会勉強会より

4月6日、農業改良普及課では、27年度にCO₂発生機等を事業で導入した南国市のイチゴ高設栽培研究会4戸を対象に、会員の作業場で、CO₂施用の結果について検証しました。

研究会全員は12月からのCO₂施用によって「実の太りがよかった」、「コンスタントにとれた」と効果を実感していましたが、「果実が結露する」、「冬場でもサイドを換気するので、CO₂が外へ逃げる」との課題も聞かれました。

農業改良普及課では、環境測定装置による湿度・CO₂濃度を把握することの必要性や、CO₂をダクトで効率的に施用する方法について指導しました。今後も、同研究会への巡回指導や勉強会で、環境制御技術のステップアップを図ります。

酒米説明会の開催



酒米の栽培方法などを検討する参加者

4月20日、JA土佐香美香北支所において、酒米の生産拡大に向けて講習会を開催し、生産者4名が参加しました。

農業改良普及課からは、昨年度2名の生産者が栽培した酒造好適米の「吟の夢」の生育や品質について報告しました。

環境農業推進課の専門技術員からは、酒米の情勢や栽培上の注意点を説明しました。

参加者からは、「酒米の施肥方法は主食用米と異なるのか」など、積極的な質問が出されました。

農業改良普及課では、香北地域に合う酒米栽培方法について検討するなど、引き続き生産拡大に向けて支援していきます。